

令和4年度 鳴門教育大学
グローバル教員養成プログラム 実施報告書

日本語教育実習
〈チャンカセーム・ラチャパット大学〉
(タイ王国)

<出張者所属・氏名>

教員2名	グローバル教育コース	日本語教育・日本文化分野	田中 大輝
	グローバル教育コース	日本語教育・日本文化分野	廣田 知子
院生2名	グローバル教育コース	日本語教育・日本文化分野	飯島 雅人 (M2)
	グローバル教育コース	日本語教育・日本文化分野	岩井 ゆふ (M1)

<出張場所・期間>

用務地 : タイ王国
用務先 : チャンカセーム・ラチャパット大学
出張期間 : 令和5年3月6日(月)～3月10日(金)

1. はじめに

本研修では、主に以下の(1)-(3)の3つの活動を通して、参加者にグローバルな視点を持った教員としての資質・能力を身に付けさせることを目的とした。

(1) 【研修活動1】

チャンカセーム・ラチャパット大学で学ぶ学生たちとの交流を通して、タイの高等教育機関で学ぶ学習者の学習動機や日本語・日本文化についての考えを知る。
また、タイの文化に触れ、日本の文化との違いを体験する。

(2) 【研修活動2】

- a. チャンカセーム・ラチャパット大学で実際に日本語の授業を行うことで、タイの高等教育機関で学ぶ学習者の日本語能力向上や日本文化の理解促進に貢献する。
- b. 学習者や指導者からフィードバックを得ることで、日本語教育者としての能力を高める。

(3) 【研修活動3】

タイの教育機関で使用されている教材等を分析することで、タイの日本語教育事情についての理解を深める。

2. 研修計画・内容

2-1 本研修の参加者

本研修の参加者は(4)のとおりである。参加する学生は(5)の方針で選抜した。

(4) 本研修の参加者

- a. 教員2名
グローバル教育コース 日本語教育・日本文化分野 田中 大輝
グローバル教育コース 日本語教育・日本文化分野 廣田 知子
- b. 院生2名
グローバル教育コース 日本語教育・日本文化分野 飯島 雅人 (M2)
グローバル教育コース 日本語教育・日本文化分野 岩井 ゆふ (M1)

(5) 本研修の参加者（学生）の選抜方針

- a. 日本語教育に関する豊富な知識・経験を有していること。
- b. 今回の海外研修の目的を十分に理解し、グローバルな視点を持った教員になるために、自らの資質・能力を高めたいという目的意識が明確であること。

2-2 本研修の日程

本研修は以下の日程で実施した。

(6) 本研修の日程

日順	月日(曜日)	業務地	業務内容
1	3/6(月)	徳島→羽田 羽田→バンコク	移動 JL452 (徳島発 07:40→羽田着 08:50) 移動 JL031 (羽田発 11:25→バンコク(スワンフーム)着 16:20)
2	3/7(火)	チャンセーム・ ラチャパット大学	10:00-11:00 チャンセーム・ラチャパット大学の3年生たちによる 構内案内 (①) 11:00-12:00 チャンセーム・ラチャパット大学の3年生たちとの昼食 (②) 12:00-13:00 「Japanese Listening and Speaking 2」 (1年生対象) における岩井の授業 (③) 13:00-13:50 「Japanese Listening and Speaking 2」 (1年生対象) における学生たちのパフォーマンス (④) 14:00-15:00 ビジネス日本語学科の先生との諸々の打ち合わせ (⑤) 15:00-16:30 岩井の授業 (③) についての振り返り (⑥)
3	3/8(水)	チャンセーム・ ラチャパット大学	09:00-10:00 「Japanese Listening and Speaking 4」 (2年生対象) における飯島の授業 (⑦) 10:00-11:00 「Japanese Listening and Speaking 4」 (2年生対象) における学生たちのパフォーマンス (⑧) 11:30-12:30 ビジネス日本語学科の先生方との昼食 (⑨) 13:00-13:45 飯島の授業(⑦)についての振り返り (⑩) 14:00-15:00 廣田による特別講義 (⑪) 15:30-16:30 学長表敬訪問 (⑫)
4	3/9(木)	バンコク	10:30-11:30 国際交流基金バンコク日本文化センター図書館見学 (⑬) 12:00-13:00 昼食 13:30-14:30 泰日経済技術振興協会 (ソート) 附属語学学校内の 書店見学 (⑭) 14:30-15:30 BOOKS Kinokuniya THAILAND 見学 (⑮) 16:30-18:00 ビジネス日本語学科の先生方との夕食 (⑯)
5	3/10(金)	バンコク→羽田 羽田→徳島	移動 JL032 (バンコク(スワンフーム)発 9:55→羽田着 17:30) 移動 JL465 (羽田発 19:50→徳島着 21:05)

2-3 本研修の内容とその成果

以下、教員（田中・廣田）の立場から、本研修の内容とその成果を概観していく。各活動の詳細については、学生（飯島・岩井）による「参加報告書」を参考されたい。

2-3-1 【研修活動1】について

(1) 【研修活動1】（再掲）

チャンカセーム・ラチャパット大学で学ぶ学生たちとの交流を通して、タイの高等教育機関で学ぶ学習者の学習動機や日本語・日本文化についての考えを知る。
また、タイの文化に触れ、日本の文化との違いを体験する。

(7) 対象となった活動

	日付	場所	交流相手	活動
①	3/7(火)	チャンカセーム・ラチャパット大学	3年生	構内見学
②	3/7(火)	チャンカセーム・ラチャパット大学	3年生	昼食
④	3/7(火)	チャンカセーム・ラチャパット大学	1年生	パフォーマンス鑑賞
⑧	3/8(水)	チャンカセーム・ラチャパット大学	2年生	パフォーマンス鑑賞

<①【構内見学】について>

ビジネス日本語学科の井尻史子先生の計らいで、3年生の13名が2グループに分かれて私たちを案内してくれることになった。3年生たちとの事前の連絡はLINEグループでのチャットで行った。もともとは田中と学生の代表者の間で連絡を取り合うつもりだったが、3年生はなかなか自信を持ってない学生が多く、代表者が他大学の日本人教員と一対一で連絡を取り合うことに不安を感じたようで、グループでのやり取りとなったということであった。

廣田と岩井のコースは、時計と反対周りにぐるっと回るコースだった。学生たちは、最初とてもおとなしい印象を受けたが、徐々にうちとけ、スマホの翻訳アプリを使って、こちらの質問に、一生懸命に答えてくれた。私たちが質問した建物の名前がわからなかったとき、機械翻訳では、「ノウハウ」という単語が出てきていた。建物の名称なのに、なぜそんな訳語が出てくるのかわからなかったが、最終的に何度も調べてくれて、「経営学部」の建物であることが判明した。日本人との会話には、慣れていない様子が見られたが、できるだけ「やさしい日本語」を使って、会話をするよう心掛けた。構内には暑い国独特の植物が見られ、昼間は日差しが強く、少し歩いてもぐったりする感じであったが、図書館に入った途端、冷房が効いていて、快適であった。ビジネス日本語学科であるためか、日本の小説などの蔵書は少ない印象を受けた。廣田は4年前に一度案内されたので、カラオケルームにも驚くことはなかったが、実際に使用している姿を見るのは、今回が初めてであった。勉強に疲れた頭をカラオケでリフレッシュするというのは、面白いアイデアだと思う。

<②【昼食】について>

学生の案内により、学内の食堂で、タイ料理（カオマンガイ）を注文していただく。いっしょにスイカジュースもいただいた。後で写真を撮って、説明を受けてから気づいたが、教員用と学生用の座るところは、区別がある。教員用のテーブルには、テーブルクロスがかけられ、造花が飾ってあった。



図1 食堂の様子（教員用のテーブルより）

3年生の役割は昼食の案内まで（時間が早かったからか、学生たちはまだ食べないとのことであった）の予定であったが、私たちが食べ終わってからも多くの学生が食堂に残り、飯島・岩井といろいろな話に花を咲かせていた。さらにそのうちの4人は、この後の岩井の授業（1年生対象：③）にも参加してくれることになった。上述したとおり、3年生はなかなか自信を持ってない学生が多いとのことだったのであるが、慣れてくるにしたがって、もっと日本人と話したい、もっと日本人と交流したいという思いが強くなったのかもしれない。私たちとの交流が少しでも彼らの日本語学習の動機づけにつながればうれしく思う。

<④【1年生のパフォーマンス鑑賞】について>

日本から訪れた私たちにタイの文化を伝え、歓迎の気持ちを表そうとする学生たちの気持ちをうれしく感じた。笛を吹いたり、顔に白い粉を付けるパフォーマンスを実際にやってくれた。見ているときはどのような場面での作法なのかよくわからなかったが、井尻先生の説明を後で聞くことができ、納得できた。その後、コンビニや屋台で売っていたタイの食べ物もプレゼントしてくれた。日本からの客人をもてなす、おもてなしの心が感じられた。



図2 顔に白い粉を塗る儀式の様子



図3 タイの食べ物のプレゼント

<⑧【2年生のパフォーマンス鑑賞】について>

フォーメーションを組んだダンスパフォーマンスを行ってくれた。インドネシアでも客人が来たときには、必ずダンスをしてもてなす風習があるが、東南アジアの国々の特徴なのかもしれないと思いながら見た。また、タイの駄菓子類を朝早くから、私たちのために購入してくれてプレゼントしてくれた。



図4 ダンスパフォーマンス



図5 タイのお菓子の紹介

2-3-2 【研修活動2】について

(2) 【研修活動2】（再掲）

- a. チャンカセーム・ラチャパット大学で実際に日本語の授業を行うことで、タイの高等教育機関で学ぶ学習者の日本語能力向上や日本文化の理解促進に貢献する。
- b. 学習者や指導者からフィードバックを得ることで、日本語教育者としての能力を高める。

(8) 対象となった活動1（授業）

	日付	授業名	対象学年	授業者
③	3/7(火)	Japanese Listening and Speaking 2	1年生	岩井 ゆふ (鳴門教育大学大学院生)
⑦	3/8(水)	Japanese Listening and Speaking 4	2年生	飯島 雅人 (鳴門教育大学大学院生)

(9) 対象となった活動2（振り返り）

	日付	授業名	参加者
⑥	3/7(火)	Japanese Listening and Speaking 2	【鳴門教育大学】 田中、廣田、岩井、飯島 【チャンカセーム・ラチャパット大学】 井尻先生
⑩	3/8(水)	Japanese Listening and Speaking 4	【鳴門教育大学】 田中、廣田、飯島、岩井 【チャンカセーム・ラチャパット大学】 サワニー先生、タワット先生、パウリン先生、 井尻先生

<③【岩井による授業】、および、⑥【その振り返り】について>

自身の出身地・鳴門教育大学・徳島県の紹介に始まり、自身のこれまでのタイ滞在の思い出、好きなこと・好きな物の紹介を経て、食べ物や料理の名称の練習に入るという導入の仕方がとても自然であり、タイの学生たちも自然に引き込まれていった様子であった。全体的に、流れもスムーズであり、例の挙げ方（語の選定にも工夫が感じられた）、インターアクションの取り方（一方的にならない、また、単調にならない工夫が随所に見られた）、授業資料の作り方・見せ方等、様々な点において、今までの岩井の日本語教師としての経験がしっかり活かされているという印象を受けた。

少し残念に感じたのは、学習項目は文の形（例：アイスクリームは甘いです）で示されていたのだが、実際のグループ活動では、単語レベルで発話して終わってしまっている学生もいたことである。最後まできちんと「～です。」と文単位で話すよう導くことが大切であろう。（ただし、発話練習ができれば良しというところに目標を持つてくるのであれば、その

ような方法でもかまわないという考え方もできる。)

さらに疑問に思った点は、以下の会話例である。

A : アイスクリームと ケーキと どちらがあまいですか。

1) B : アイスクリームのほうが あまいです。

2) B : どちらも あまいです。

授業中に提示された会話の中に、A という問いに対して上記のように2とおりの答えが示されていた。よく考えてみると、そもそもこのAの質問は、どういったシチュエーションで発するものなのかという点が疑問であった。Aの内容を質問することに対するワクワク感がなく、答えを知りたいという想いも生まれにくい。文型先導型になってしまった感があったので、質問を発する必然性を感じさせるような、違った例を挙げると良かったのではないだろうか。初級といえども、より自然な発話の場面を考えることは大切だと思われる。

<⑦【飯島による授業】、および、⑩【その振り返り】について>

飯島は、対象となる学生たちに対して1月に一度オンラインで交流を行う機会を得ていた。そのことが授業に活かされており、当時の内容の復習から入り、既習内容を通して学生とインターアクションを取ろうという姿勢がよく表れていた。また、声のトーンやスピードが適切であり、初級の学習者にも聞き取りやすかったと思われる。

ただ、本人も反省していたが、全体的に教師による説明部分が長くなってしまい、学生は聴くだけという時間が続いた(最初の20分はずっと教師による説明であった)のが残念であった。また、説明の中で、「表現」「質問」「正解」「想像」「手段」「セット」など、初級の学習者が聞いて理解するには難しいのではないかと思われる語が多数出てきたことも、学習者の理解を妨げてしまっていた可能性がある。さらに、以下のように、覚えなければならない文型が多かったので、グループ活動ではどのグループも混乱気味であった。

- おすすめの【場所(観光地)】／【お土産】を教えてください
- おすすめの【場所(観光地)】／【お土産】を教えてくださいませんか。
- 私のおすすめの【場所(観光地)】／【お土産】は××です。
- ○○から【場所(観光地)】までどれくらいかかりますか。
- どうやって行きますか。
- ××はいくらですか。

各グループに1人ずつ混じった日本人およびビジネス日本語学科の先生方の裁量で、整理しながら進められていたが、どういった文で問いかければいいのかなど、戸惑った学生も多かったように思われる。また、時間の関係で最後にまとめて発表することとなったが、大きく分けて、「場所」と「お土産」のトピックに分かれたので、その2つのパートごとに時間を設け、きちんと区切って発表することにしても良かったかもしれない。

2-3-3 【研修活動3】について

(3) 【研修活動3】（再掲）

タイの教育機関で使用されている教材等を分析することで、タイの日本語教育事情についての理解を深める。

(10) 対象となった活動

	日付	場所	活動
⑬	3/9(木)	国際交流基金バンコク日本文化センター図書館	施設見学、日本語教材等の分析
⑭	3/9(木)	泰日経済技術振興協会（ソソート） 付属語学学校内の書店	施設見学、日本語教材等の分析
⑮	3/9(木)	BOOKS Kinokuniya THAILAND	施設見学、日本語教材等の分析

<⑬【国際交流基金バンコク日本文化センター図書館】について>

日本語や日本語教育の研究書、および日本語の教材が豊富に取り揃えられていた。最近のものだけでなく古いものも充実しており、日本の一般的な図書館や書店では見られない書籍（絶版となっているものなど）も多数揃っていた。さらに、日本で出版されているものだけでなく、タイで出版されているものや、日本で出版されている書籍のタイ語翻訳版の品揃えも豊富であり、日本語や日本文化の教師・研究者にとっても非常に有益な場所であることがうかがえた。

また、「日本文化センター」と銘うっているだけあって、日本文化についての書籍も充実していた。着物の着付けや日本料理についてのものなど、実用的な書物もあったので、単に日本語学習に関する書物のみでなく、日本文化に関連するかなりの部分をカバーしていると思われる。会費を出して会員になれば、貸し出し可能ということで、まさに文化センター的役割を果たしているのであろう。

<⑭【泰日経済技術振興協会（ソソート）付属語学学校内の書店】について>

各種教科書をはじめ日本語学習に必要な書籍はほとんど揃っていた。特に、日本では入手できない『日本語 あきこと友だち』シリーズ（旧版・改訂版）、『こはるといっしょに』シリーズなども全種類が揃っており、たいへん便利な書店であった。また、書籍以外にも、胸に日本語をプリントしたTシャツなどが売られていて、目をひいた。

<⑮【BOOKS Kinokuniya THAILAND】について>

ショッピングモールの中の一区画で、フロアはかなり広がった。日本語のマンガのシリーズも取り揃えられていた。価格は日本で購入するより高めであったが、日本の出版物の主要なものが手に入る場所が存在するというのは、現地の学習者にとっても教師にとっても非常にありがたいことであろう。

2-4 特別講義

(11) 対象となった活動

	日付	場所	学生	講義内容	登壇者
⑪	3/8(水)	チャンカセーム・ラチャパット大学	1年生～3年生	短歌への誘い	廣田 知子

今回の研修においては、チャンカセーム・ラチャパット大学側から、日本文化に関する話を1時間という枠組みの中でしてほしいという依頼があった。テーマを何にしようかと思っただが、鳴門教育大学での後期授業「日本事情・日本文化」の中で取り上げ、履修学生が楽しんでくれた短歌について話すことにした。

対象者は、日本語力がほぼ初級レベルの1年生から3年生まで約80名ということで、適宜、タイ語の通訳をつけてくれるということであった。いつもの短歌の授業では、3コマ分の時間(4.5時間)をとって、説明→鑑賞→実作と進むのだが、今回は、たった1時間という短時間であるため、果たして実作までこぎつけることができるのか懸念された。当初、PPT作りの段階では、実作の時間を取るのは無理なので、説明と鑑賞だけで終わってもやむをえまいと思っていた。しかし、井尻先生との事前のメールやりとりで、紙を用意するので、実作指導までやってほしいとリクエストされた。通訳がどの程度入ることになるのか、詳細は打ち合わせしておらず、逐語訳だと情報量が半分になってしまうかと不安も大きかった。

実際に、チャンカセーム・ラチャパット大学を訪問し、井尻先生や通訳のパウイン先生にお会いしてから、講義のイメージが徐々にできあがっていった。パウイン先生は、1週間ほど前にお送りしていた講義資料を丹念に読んでくださっていたし、井尻先生からは、会場で出来上がった学生自筆の短歌を写真に撮り、プロジェクターに映し出す作業をやっていただけというお話もあった。4年前に日本語教育実習を行った際の報告書を読み、チャンカセーム・ラチャパット大学では、普段から外部講師を招いて「五行歌」を授業に取り入れていることを知っていたので、比較的、短歌という短詩型文学の世界にも入っていきやすいのではないかと予想された。

講義は浴衣に下駄というスタイルで行った。日本文化を伝えるという意気込みと雰囲気を示すことは大切だと感じたからである。



図6 講義風景

以下、講義内容を PPT の目次（5 項目）に従って述べる。

2-4-1 はじめに

簡単なプロフィールや、廣田自身と短歌との出会いを紹介した後、自己紹介代わりに、インドネシアで作った短歌を紹介した。JICA 派遣でインドネシアに滞在中、日々の日本語教育で感じたことを歌にしたものである。

ハイハイと挙がる学生の指先はまつすぐ未来を指すと思ひぬ
書・茶碗日本文化を運びきし友は多くの憧れ残す
よく笑ふ先生がゐる教室はいつも楽しき冗談が満つ
先生の若さは一つの魅力なり明るき笑顔で漢字教へて

2-4-2 俳句と短歌の違い

四季の区別がないタイの学生にとっては、季語を使う必要のない短歌は、俳句に比べ、ハードルがより低くなると思われる。短歌は、5 7 5 7 7 のリズムで作られること、季語がなくてもいいことを押さえておいた。

現代の短歌として忘れてはならないのが、俵万智の『サラダ記念日』(1987)である。その中から次の 2 首を紹介した。

「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日
「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ

短歌は、いったん発表されると、作り手から離れて読み手の想像力の世界にゆだねられる。この講義でも、季節はいつだろうか、その場に何人いるのだろうか、あるいはどんな場面なのだろうかなどと問いかけ、学生の頭の中で想像を広げてもらった。

2-4-3 短歌と日本語学習

短歌作りのために、何よりも大切なのは、5 7 5 7 7 という定型の拍を、正確に数えられるかどうかということである。最終的に実作までもっていくためには、練習が必要だと考え、クイズを用意した。以下の 10 問を少し時間をおいて考えてもらい、後で答え合わせをした。

- | | | |
|---------------------|---------------------|------------------|
| 1) 大学 (だいがく) | 2) 切手 (きって) | 3) 留学生 (りゅうがくせい) |
| 4) 忍者 (にんじゃ) | 5) 豆腐 (とうふ) | 6) 納豆 (なっとう) |
| 7) サッカー | 8) 一休さん (いっきゅうさん) | |
| 9) コロナ感染症 (かんせんしょう) | 10) チャンカセームラチャパット大学 | |

その後、促音、拗音、長音など特殊音の場合は、すべて一拍として数えるというルールをまとめて示した。

2-4-4 現代の短歌鑑賞

短歌は、日本人のものだけにとどまらない。「東洋大学現代学生百人一首」において第35回（2021年度）と第36回（2022年度）の入選作品となったタイのシーナカリンウィロート大学の学生の歌を紹介した。

梅雨の間に花が喜び鳥歌う祭りみたいにさわやかな日々

（シーナカリンウィロート大学3年 パンチャラット クルーソン）

たくさんの人にやさしくしているが自分にもぜひ忘れないでね

（シーナカリンウィロート大学3年 ポーンパット ピサッシペン）

鳴門教育大学での「日本事情・日本文化」の際に導入した短歌の授業での作品も紹介した。授業では3つの課題に基づいて作ってもらった。その後の授業で、自分がいいと思う短歌に票を入れるという歌会を行った。以下に挙げるのは、受講生の中で投票数の多かったものである。

【課題1】 たのしみは～とき で一首（初句と結句のことばが指定されたもの）

たのしみは美味しいお菓子久々にもぐもぐもぐと食べているとき

（劉 振靈）

たのしみは夜空の下で君に会い苦しむことを忘れていた時

（沈 朱震寰）

【課題2】 題詠（ふるさと ということばを入れて一首）

ふるさとに帰りたいけど金がない鳥になるなら料金不要

（吳 昭慶）

ふるさとにいろいろな猫町の中走り回って見たら目が回る

（ケンカン プッターピバーン）

【課題3】 自由詠（自由に自分で選んだ題材で一首）

秋の葉がゆるゆる落ちて木の下に立ってまたありのまま

（魏 鴻宇）

風が来たとても寂しい雨が来た君はどうかな僕は知りたい

（コンチャトン メタシット）

2-4-5 まとめ

短歌のルールをもう一度 PPT で示して、歌人である栗木京子氏の短歌を最後に紹介した。

観覧車回れよ回れ思ひ出は君には一日（ひとひ）我には一生（ひとよ）

（栗木 京子）

若者が共感しやすい歌だと思われるが、この歌の解釈は、読み手によって受け取り方はいろいろあるだろう。廣田自身は、片思いの切なさが伝わってくると思うのだが、会場の皆さんにもそれぞれの解釈を聞いてみた。観覧車の回り方について触れてくれた学生がいた。出発点からまた元のところに戻ってくるという時間の流れと恋心の永遠さについてのつながりなど、深いところを読み取っていることがうかがわれた。この歌の優れたところは、「一日」と「一生」という言葉の対比により、同じ観覧車に乗り合わせたカップルの思いが違っているところを、うまく短歌の型の中に入れられているところにあると言えよう。

PPT の内容は以上の5項目であったが、その後の時間は、会場にいる学生たちに歌を作ってもらった。

大人数であったため、廣田一人ではなかなか見て回れなかったが、岩井さんや飯島さん、田中先生やチャンカセーム・ラチャパット大学の先生方が机間巡視してくださったので、助かった。



図7 実作風景

出来上がった短歌の数首を取り上げて、井尻先生が写真に写し、そのままプロジェクターに映し出してくださった。学生たちの短歌の中から抜粋して、以下に示す。

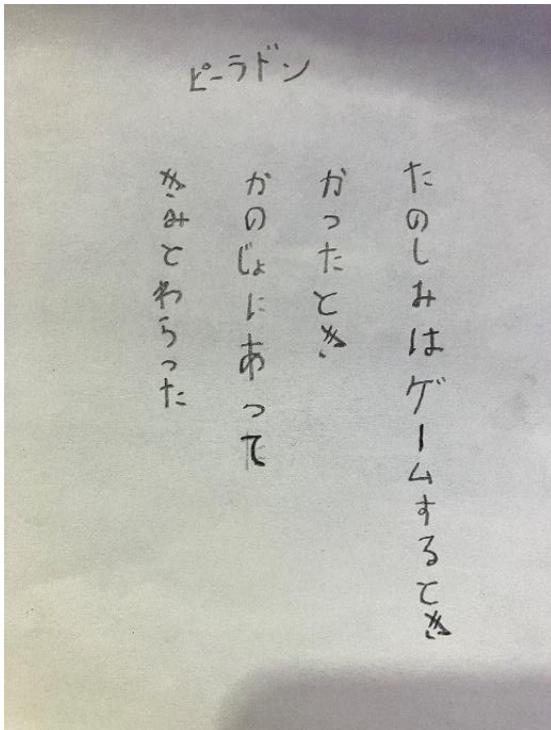


図8 学生による作品1

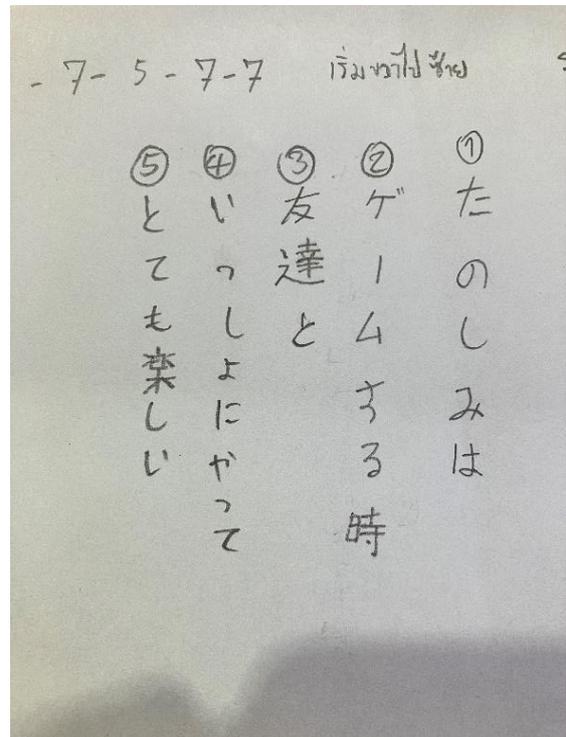


図9 学生による作品2

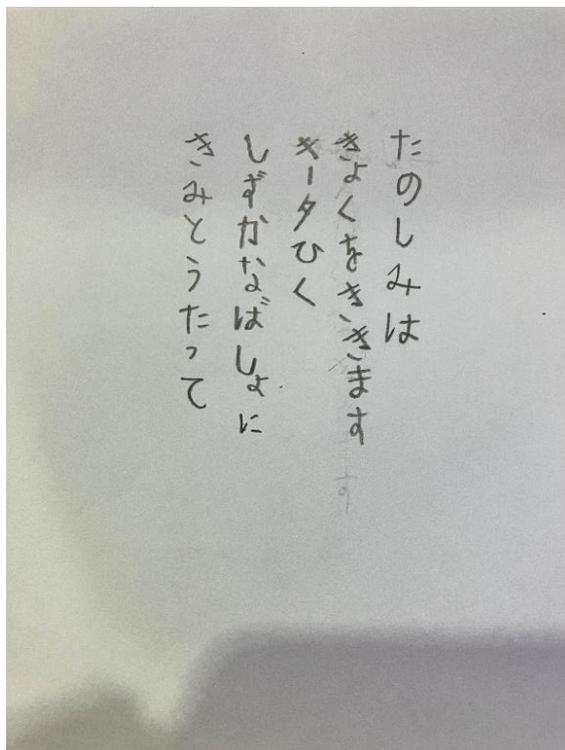


図10 学生による作品3

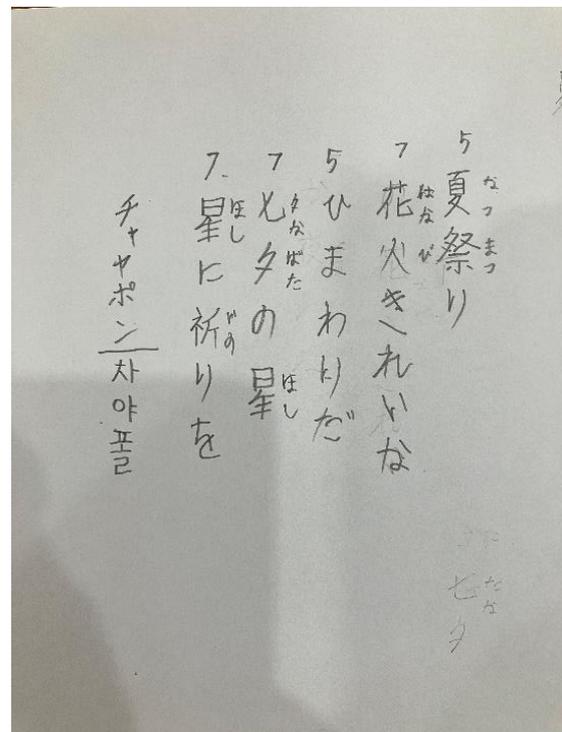


図11 学生による作品4

講義後、Google Forms で、講義の感想や、時間内にできなかった人の短歌を書いてもらった。日本語初級者が大半のため、感想はタイ語でもいいと記しておいたが、ほとんどが「楽しかった」という感想であった。Google Forms に書かれた短歌も、抜粋しておく。

たのしみはあなたはいますしあわせはあなたもいますとてもしあわせ

(จิตเพชร ฉายรักษา)

たのしみは友と遊んでバスケットしてお菓子を食べていいおもいでよ

(ไวยราตต์ อุณมหารพัตต์)

はじめては、すごく嬉しい 気持ちいっぱいまた、会えるなら、あきはばらを行こう。

(ターพานาร์)

人間は悪い物があり影に隠夜に旅して社会を滅ぼす。

(टीयरพัตต์)

この講義を実施するにあたって、適宜通訳を務めてくださったパウイン先生に心から感謝したい。わずかな準備期間しかなかったと思われるが、きちんと資料を読みこんでくださり、講義の前に、資料を見て、短歌の深さに感銘を受けたという感想も語ってくださった。また、メールのやり取りでいろいろご相談に乗っていただいた井尻先生にも感謝の意を表したい。冒頭にも述べたように、1時間という短い時間で実作までもっていった経験はなかったので、時間が足りるだろうかという不安な気持ちが多々あったのだが、井尻先生のサポートは、それを払拭してくれるものであった。



図 1 2 通訳してくださったパウイン先生

今回の講義で、課題も見出された。学生たちが作った短歌はそれぞれの個性があり、57577のルールを少々はみ出ている、初めての短歌作りは、貴重な体験になったことと思われる。しかし、やはり時間の短さから、57577のルールを説明するだけに終わり、表記上のルールまでを丹念に説明できなかったことが悔やまれる。原則として、短歌は短詩型文学であるゆえに、文章で使われる「、」や「。」は省略される。学生の短歌の中で、Google Formsに書かれたものは、「、」や「。」のついたものが多々見られた。また、5行に分けて書かなくてもいいと説明したつもりだったが、「五行詩」に慣れているせいか、1行ではなく5行に分けて提出した学生がほとんどだった。

また、これも時間が許せばできたことだが、日本の昔の和歌とタイの短詩型文学との比較なども興味を持って質問を寄せた学生もいた。今回は省略した歴史的なことにも触れ、タイの短詩型文学との相違点をしめすことができれば、内容がより深まったのではないかと思われる。

最後にチャンカセーム・ラチャパット大学のタワット先生とサワソニー先生の合作も披露しておく。

人生はいろいろあって幸せや悲しいこともとうぜんだよ

(タワット&サワソニー)

老若男女、様々な人生の場面を切り取った題材は多岐にわたるところが、短歌の魅力のひとつである。今後も、表現力や想像力を磨き、国境を越え、様々な国で短歌の楽しみが広がることを願ってやまない。



図13 講義後、出席者全員での記念撮影

3. 最後に

本学関係者がチャンカセーム・ラチャパット大学を訪れるのは2019年3月以来、4年ぶりであることから、以下のように、研修中の様々な機会に、チャンカセーム・ラチャパット大学の学長、副学長、学部長、そして、ビジネス日本語学科の先生方とお話をする機会をいただくことができた。特に、学長表敬訪問の際には、この4年間での両大学の交流（オンラインでの交流等も含む）実績を踏まえ、両大学の学生の学びをさらに深めるために、また、両大学の交流をさらに発展させるために、相互の学生の派遣・受け入れの充実や教員間の共同研究・相互派遣の実施など、数多くの提案をいただき、今後の研修や交流のあり方を具体的に検討することができた。ここに記して感謝したい。

(12) 対象となった活動

	日付	参加者	内容
⑤	3/7(火)	【鳴門教育大学】 田中、廣田、岩井、飯島 【チャンカセーム・ラチャパット大学】 井尻先生	打ち合わせ
⑨	3/8(水)	【鳴門教育大学】 田中、廣田、岩井、飯島 【チャンカセーム・ラチャパット大学】 サワニー先生、タワット先生、パウイン先生、井尻先生	会食
⑫	3/8(水)	【鳴門教育大学】 田中、廣田、岩井、飯島 【チャンカセーム・ラチャパット大学】 スマーリー学長、ピヤホーン副学長、トンチャイ副学長、プラスイット学部長、 サワニー先生、タワット先生、パウイン先生、井尻先生	学長表敬訪問
⑯	3/9(木)	【鳴門教育大学】 田中、廣田、岩井、飯島 【チャンカセーム・ラチャパット大学】 タワット先生、井尻先生	会食

また、新型コロナウイルスによる世界的な不安がまだ完全には収まらない中、本学の訪問を快く引き受けてくださった、スマーリー学長をはじめとするチャンカセーム・ラチャパット大学の全ての関係者の方々に厚くお礼申し上げたい。特に、滞在中だけでなく渡航前から私たちの質問や要望に素早くご対応くださり、タイでの生活や実習に向けて様々な情報・アドバイスをくださった井尻史子先生には、心より感謝申し上げます。また、学科長のサワニー先生、通訳を引き受けてくださったパウイン先生、この4年間での両大学の交流実績をまとめあげてくださったタワット先生など、皆様の心からのホスピタリティにも深く感謝する。今回の研修をきっかけとして、両大学の交流がますます深まることを願うばかりである。

最後に、本研修の成果と意義をまとめておく。

本学から派遣された研修生の一人である飯島雅人さん（M2）は、かつて、JICAの青年海外協力隊員として、タイ東北部のブリラム県にある高校で日本語を教えた経験があった。また、本研修での派遣の前に、オンラインでチャンカセーム・ラチャパット大学の学生たちと交流を図り、今回の研修に至る足慣らしができていた状態であった。そのため、現地で教壇に立っても、その延長として落ち着いて授業に入ることができていた。一方、実際の授業では、自分で思っている以上に説明の時間が長くなってしまっていたなどの課題が見つかった。本研修により、学生からの発話を「待つ」ことの大切さなどが学べたことであろう。もう一人の研修生である岩井ゆふさん（M1）も、過去にタイ中部のアユタヤ県にある高校で日本語教師をしていた経験があったので、タイ文化にも精通していて、今回の研修を余裕をもって楽しめたようであった。授業の冒頭でも、タイで行ったことのある場所のスナップ写真を何枚も紹介していたので、学生もこの教師のことをとても身近に感じられたことであろう。構内見学のときには積極的に学生に「やさしい日本語」で語りかけていて、日本語教師としての基本的な資質が備わっていることがうかがえた。このように自らのスタイルを確立している一方で、授業の準備・本番・振り返りの各段階で至らない点を指摘された際には、それを真摯に受け入れ、改善に役立てようとする謙虚さも見せていた。飯島・岩井両名とも、特にチャンカセーム・ラチャパット大学の先生方からご指摘いただいた改善点や課題は、その着眼点も含め、本学に留まっているだけでは得られなかった貴重な経験となったことであろう。

さて、今回の研修では、学長表敬訪問の際、2019年3月訪問時の研修の内容が改めて紹介された。そのときの研修生の一人であった山本和美さんは、現在、中国の大学で日本語教師として活躍中である。もう一人の研修生であった井上育美さんも、現在、愛媛県の高校で英語教師として活躍中である。（井上さんは、大学院修了後、愛媛県の高校生とチャンカセーム・ラチャパット大学の学生とのオンライン交流会を実現させたとのことである。研修で得られた成果・繋がりを日本の教育現場に還元している例として、たいへん心強く感じた。）二人とも、チャンカセーム・ラチャパット大学での経験が、国際的な視野を広げ、教師としての力を伸ばすことに繋がったと述懐している。今回の研修に参加した飯島・岩井両名も、今回の研修を教師としての自身の力量の向上に活かすことはもちろん、先輩たちのように、本研修で得られた経験をもとに、日本と世界の教育を繋ぐ架け橋として活躍することが期待される。

最後に、本研修において私たちの派遣を許可くださった本学の佐古秀一学長、本研修の実現にあたって事前・事後に手厚いサポートを賜った学生課国際交流係の皆様、教員教育国際協力センターの皆様に、心から御礼申し上げます。

令和4年度 鳴門教育大学

グローバル教員養成プログラム 参加報告書

日本語教育実習

〈チャンカセーム・ラチャパット大学〉

(タイ王国)

鳴門教育大学大学院 学校教育研究科

人間教育専攻 グローバル教育コース

学籍番号 22813056・21813021

氏名 岩井 ゆふ・飯島 雅人

1. 大学機関名

(日) チャンカセーム・ラチャパット大学 人文社会学部 ビジネス日本語学科

(英) Department of Business Japanese Program, Faculty of Humanities and Social Sciences, Chandrakasem Rajabhat University (以下 CRU)

(泰) มหาวิทยาลัยราชภัฏจันทรเกษม คณะมนุษยศาสตร์และสังคมศาสตร์ สาขาวิชาภาษาญี่ปุ่นธุรกิจ ศศ.บ.

2. 所在地

タイ王国 バンコク都 ラチャダー

39/1 Ratchadaphisek Rd Chatuchak Bangkok 10900

3. 研修期間

2023年3月6日(月)～10日(金)

(現地での活動は3月7日(火)～9日(木)の3日間)

4. 目的

- 1) CRU で学ぶ学生たちとの交流を通して、タイの高等教育機関で学ぶ学習者の学習動機や日本語・日本文化についての考えを知る。また、タイの文化に触れ、日本の文化との違いを体験する。
- 2) CRU で実際に日本語の授業を行うことで、タイの高等教育機関で学ぶ学習者の日本語能力向上や日本文化の理解促進に貢献する。
- 3) 学習者や指導者からフィードバックを得ることで、日本語教育者としての能力を高める。
- 4) タイの教育機関で使用されている教材等を分析することで、タイの日本語教育事情についての理解を深める。

5. 日程

今回の派遣の日程は表1のとおりである。

表 1

日順	月日(曜日)	滞在地	交通機関(発着地, 発着時間, 会社名, 便等) および 活 動 内 容
1	3月6日(月)	徳島→東京 東京→バンコク	7:40 徳島空港発 8:50 東京・羽田空港着 [航空会社] JAL [便名] JL452 11:25 東京・羽田空港発 16:20 バンコク・スワンナプーム空港着 [航空会社] JAL [便名] JL031
2	3月7日(火)	バンコク	10:00-11:00 CRUの学生による構内案内 11:00-12:00 学生と昼食 12:00-13:50 1年生への授業(岩井) 14:30-15:00 翌日の打ち合わせ 15:00-16:30 1年生の授業のフィードバック
3	3月8日(水)	バンコク	9:00-11:00 2年生への授業(飯島) 11:30-12:30 ビジネス日本語学科の先生方と昼食 13:00-13:45 2年生の授業のフィードバック 14:00-15:00 廣田先生による講義 15:30-16:30 CRU学長、副学長らとの会議
4	3月9日(木)	バンコク	10:30-11:30 国際交流基金バンコク 日本文化センター 図書館見学 12:00-13:00 昼食 13:30-14:30 泰日経済技術振興協会(ソーソートー) 付属語学学校内書店で教材調査 14:30-15:30 BOOKS Kinokuniya THAILAND で教材調査 16:30-18:00 夕食(ビジネス日本語学科の先生方と)
5	3月10日(金)	バンコク→東京 東京→徳島	9:55 バンコク・スワンナプーム空港発 17:30 東京・羽田空港着 [航空会社] JAL [便名] JL032 19:50 東京・羽田空港発 21:05 徳島空港着 [航空会社] JAL [便名] JL465

6. 3月7日（火）現地での活動について

6-1. CRUの学生による構内案内

CRU ビジネス日本語学科の3年生の学生13名が2つのグループに分かれて、片方のグループは田中先生、飯島を、もう一方は廣田先生、岩井を案内してくれた。



図 1 CRU キャンパスマップ

まずは顔合わせをしてから、簡単に自己紹介をし、広い大学構内を案内してもらった。日本語で書かれた構内図をもとに、廣田先生と岩井のグループは、主に学生たちがよく使う、人文社会学部棟、ビジネス日本語学科オフィスが入っている4ビル、(写真1)図書館、学食などを一緒に回った。田中先生と飯島のグループは、廣田先生と岩井のグループとは反対周りで構内を案内してもらった。ビジネス日本語学科オフィスの前には大きい池が悠然と広がっており、構内の規模の大きさとカラフルな色の建物にタイの学校へ来たことを実感させられた。

一番印象的な建物は図書館だった。図書館の中にはなんとカラオケルームがあり、予約制で学生なら誰でも無料で利用できるとのことであった。一般的な日本のカラオケルームよりやや広い部屋にソファが並べられており、楽しそうに歌っている利用者を見かけた。防音はしっかりされているようだった。こちらの図書館の日本語関連の書籍だが、すべてタイで出版されているタイ語で書かれた教科書類であり、かなり限定されているように思えた。日本で出版され、日本語で書かれている書籍（教科書だけでなく、小説や雑誌、漫画など）も今後入っていくことを願っている。それには、日本からの中古本などの寄贈も双方の合意があれば、検討できるのではないかと思った。

学生は初め緊張した様子だったが、徐々に日本語でお互い打ち解けられるようになり、案内だけでなく日常生活などについても話が弾んだ。建物の名称や説明は難易度が高い日本語も含まれていたが、それぞれが辞書のアプリを用いて一生懸命調べて、伝えてくれた。

その後、学食へ案内してもらい、お店が何店舗も入っているので、それぞれのメニューを一通り日本語で教えてもらった後で昼食を頂いた。メニューの種類も豊富で、価格も現地の屋台以上に良心的なので、多くの学生が利用しているようだった。食後も学生たちとのおしゃべりに花が咲き、タイのそれぞれの出身地の話や将来の夢などについてたくさん話してくれた。(写真2)



写真 1 ビジネス日本語学科オフィスが入っている4ビル



写真 2 学食で学生たちと

6-2. 1年生への授業（担当：岩井）

表 2 大学1年生授業基本情報

日時	3月7日（火）12：00～13:00（60分）
授業担当者	岩井ゆふ（鳴門教育大学 修士1年）
対象者	大学1年生42名（当日出席37名） （CRU「Listening and Speaking 2」受講者）
学習者のレベル	日本語初級レベル （「みんなの日本語初級I」第19課終了程度）

15号館6階の教室にてビジネス日本語学科1年生対象の「Japanese Listening and Speaking 2」の時間を頂いて、日本語の授業を行った。出席者は37名であった。授業内容は「食べ物・料理」についてであり、到達目標は「食べ物や料理について形容詞を使って話すことができる。」であった。全体的にとっても元気があり、活発なクラスであり、グループワークも積極的に取り組んでいる学生が多かった。

授業の流れとしてはまず初めに自身の自己紹介、徳島と鳴門教育大学の紹介をした。（写真3）そして食べ物・料理の名前を全体でイラストを使って確認し、その後グループワークで食べ物・料理のイラストカード、形容詞の文字のカードを使って、一人一人に文を作ってもらい、ペアで対話練習を行ってもらった。（写真4）最後に全体の前で何人かに発表をしてもらい、ペア活動では日本人の先生たちとも対話をしてもらった。食べ物や料理の名前はカタカナも多く、初級学習者には難しいと予想もされたが、決してそんなことはなく、ほとんどの学生がこちらから提示したことばを知っており、文字を読めていたように思う。グループワークではこちらの指示がうまく伝わらないこともあり、初めは戸惑っている学生もいたが、要領がわかってくると、友達と協力し合いながら、カードを使って楽しく練習できていたように思う。グループの中で少し日本語が弱い学生が詰まりながらも文を無事言い終わると、同じチームグループの友人たちがその学生に拍手を送っていた。どんな人にも優しく、敬意を忘れないタイ人の良い姿が見られた。最後の

全体の前での発表も自主的に手を挙げてくれた学生が何人かいたのも良かった。また、日本から来た日本人と対話練習できたことも良い機会になったのではないと思う。授業後の学生一人一人に行ったアンケートにも「わかりやすかった」「楽しかった」「日本語を話すことができた」の3つのキーワードが多く見られ、反省点も多々あるが、自身が授業で大切にしていたことができたのではないと思う。

最初の1時間は岩井による授業であり、後半50分は学生たちからの発表の時間であった。タイの正月であるソンクラーン祭りに使われる楽器である笛の演奏や、僧侶に托鉢する際の作法の実演などを見せて頂いた。(写真5) また、タイでよく知られている料理や食べ物を私たちのために準備してくれており、実物を頂いたりした。(写真6) 日本語ではまだ詳しく説明できない彼らであったが、タイ人の来訪者に対するおもてなしの素晴らしさがここでも感じ取れた。



写真 3 鳴門教育大学の紹介



写真 4 グループワーク



写真 5 学生によるタイ文化紹介



写真 6 タイ料理紹介

6-3. 1年生の授業のフィードバック

CRUからは日本人教師である井尻先生、鳴門教育大学からは廣田先生、田中先生、飯島さんに自身が行った授業のフィードバックをして頂いた。良かった点としては主に授業の構成がよく、各活動項目の目的がはっきりしていたこと、イラストが多くわかりやすかったこと、グループでの話す活動を学生が楽しんで取り組んでいたことなどが挙げられた。自身の自己紹介から始まり、タイ料理が好きであることを紹介し、そのままそれをその日の授業のトピックとしてつなげていったので、流れがスムーズだったことも良かったというコメントも頂いた。学生も今日は何について話すのかを授業開始時にわかってくれたように思う。取り上げた形容詞(甘い、辛い、すっ

ぱいなど)と合うような誰もが知っている身近な食べ物や代表的な日本料理、タイ料理を挙げた。結果学生たちは難なくそれらのことばを使うことができていた。そして、後半のグループワークに使用した食べ物・料理のイラストカード(図2,3)には縁取りにピンク色を、形容詞の文字カード(図4,5)の縁取りには水色を使って、種類が異なるカードということを視覚的に表したのも学生たちにとって、わかりやすかったのではないかというご意見も頂いた。



図 2

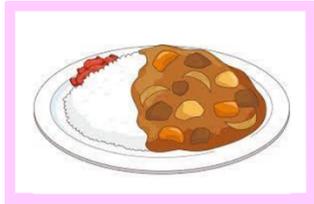


図 3



図 4



図 5

また、主な改善点としてはまず①授業全体のバランスとして、語彙導入の時間をもう少し短縮しても良かったことが挙げられた。これは学生たちがほとんどのことばをすでに知っていたり、カタカナも読めていたりしたことが挙げられる。また、事前に一人一人に配付しておいたことばリスト(日本語とタイ語の対訳が書かれたもの。本報告書末の参考資料2)のおかげもあるかもしれない。ここでCRUの井尻先生から挙げられた工夫点として、語彙の練習時間をもう少し短くすることと、同時に学生からも食べ物・料理の名前を挙げてもらい、そのことばを全体に紹介してあげても良かったかもしれないとのことだった。ということが挙げられた。(例 ほかに「辛い」食べ物がありますか。など)このように学生の発言を引き出すことで、学生にとって自信にもつながるし、印象に残りやすく、自身のことを日本語で表現できるという大切な到達目標にもつながると思われる。

次に②活動に入る前の指示の仕方が明確ではなかったことが挙げられた。これに対する対処法としては教師だけが一方的に説明するのではなく、一つのグループを例として、実際に学生にこれからやってほしいことを実演としてやってもらい、それをクラス全体に見せるという方法が挙げられた。このやり方はクラス全体にとってもわかりやすいし、何より実演している学生も理解していないとできないので、理解をしてもらうには効果的である。

さらに③学生がよく見落とす表現に対してあらかじめどのように注意を促すことができるのかということが挙げられた。よく見落とす表現としては今回の授業の場合は「アイスクリームは甘いです。」の文末の「です」が脱落してしまう学生が見られたことと、比較構文の対話の応答表現「カレーライスのほうが辛いです。」の「のほう」という表現がなかなか出てこない学生が多々見られたことである。この対処法としてはやはり文型を導入する際に、強調して言ったり、文字の色を変えて見せたりすることが挙げられた。いかに学生がそれらの表現を積極的に使ってくれるかというこちらの意識や準備が大切だご助言を頂いた。

最後に④比較構文の対話の例文が A:「アイスクリームとケーキとどちらが甘いですか。」 B1:「アイスクリームのほうが甘いです。」 B2:「どちらも甘いです。」と何とも答えにくい内容にしてしまったため、本当にみんながこの文型の意味を理解したのだろうかということが挙げられた。対処法としては、日本人とタイ人が「日本のカレー」と「タイのカレー」について話しており、

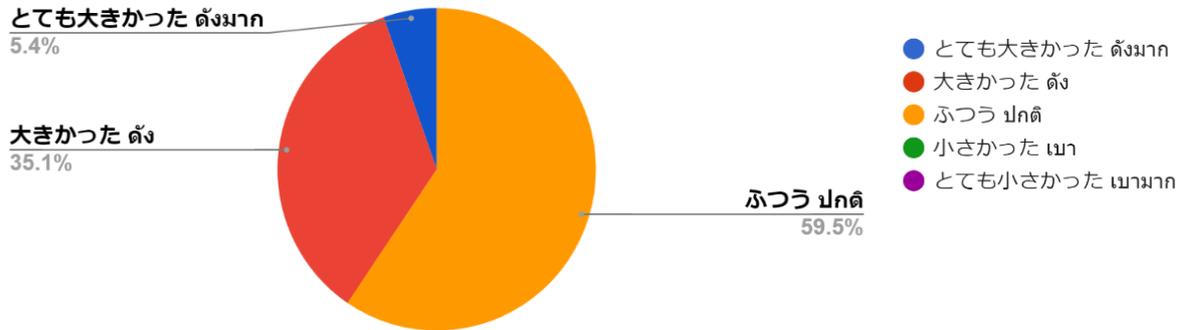
「どちらが辛いですか。」などと聞くようにすると、「比較している」状況がより明確になり、「比較する両者に差があるもの」を提示することでよりわかりやすくなるのではないかということであった。また、対話応答も B1 と B2 のパターンと二つあったので、学生にとって一度に練習するのは負担になったかもしれない。よって、練習を二つのパターンに区切って行っても良かったというご助言も頂いた。日本語教育の経験が豊富な先生方のコメントはどれも学ぶことが多く、みなさんから丁寧に細かく時間をかけてご意見を頂けたことが大変貴重な機会となった。

以下は授業後に行った学生からのアンケート結果である。

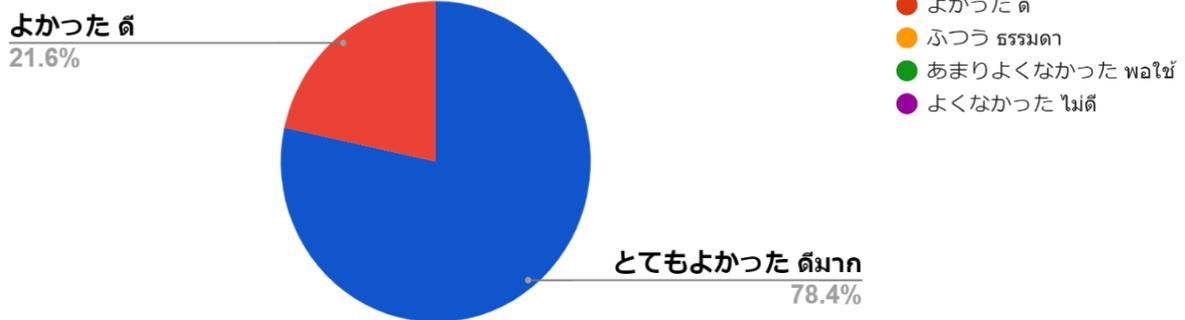
- 3月7日 授業 アンケート (Google Forms にて 37名に実施)

1. 今日の授業について教えてください。

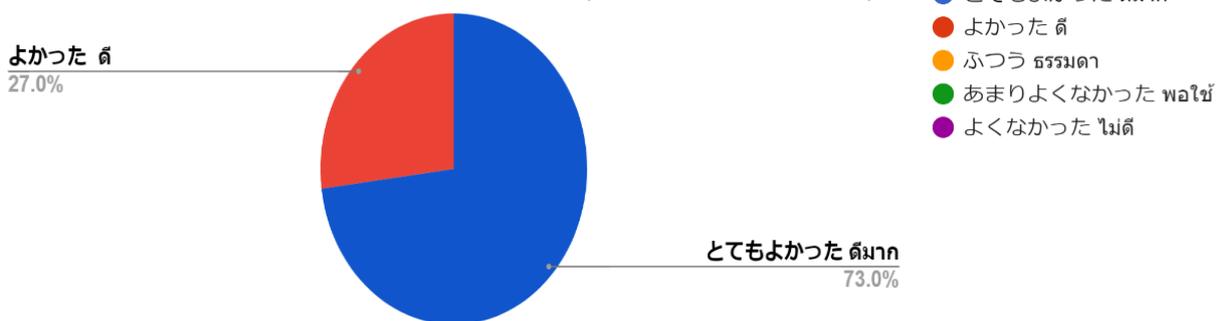
1) 声の大きさ 音量の大きさ



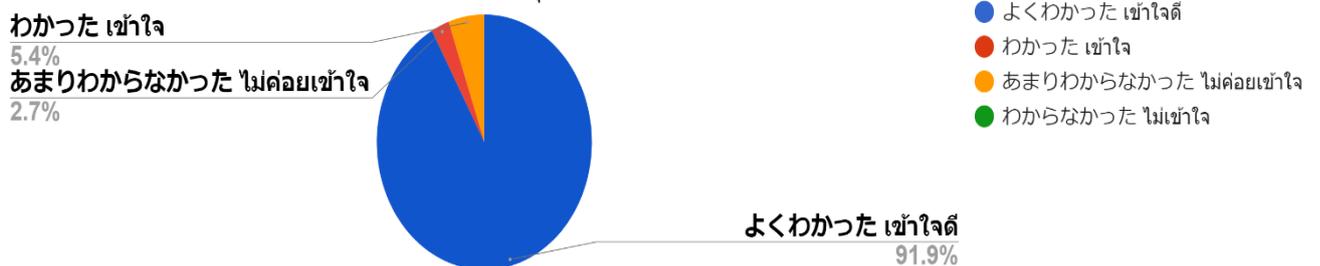
2) 説明の仕方 วิธีการอธิบาย



3) 教材 (スライド、プリント) สื่อการสอน (สไลด์, เอกสารประกอบ)



2. 今日の授業は理解できましたか。คุณเข้าใจชั้นเรียนของวันนี้หรือไม่



1. 1) 「声の大きさ」について

実はこの授業開始時に教室の設備であるマイクの調子が悪くて、使用できないことがわかった。自身は人前で話す声の大きさでは誰にも負けない自信があったので、特に問題はなかった。とは言え、学生が40人近くいる教室の後ろまで地声を飛ばすのは容易ではない。結構大きい声で話したつもりだったが、「ふつう」と答えた学生が大半であったので、自分でも少し大きすぎると感じるぐらいでちょうど良いのかもしれないと思った。マイクなどの教室の設備の調子が悪くなるのは日常茶飯事であるので、教師はいつもそれを念頭に置いておかなければならない。

2) 「説明の仕方」について

概ね良い評価をして頂いたが、それでもフィードバックでも挙げたように、グループワークの活動前の指示が明確でなく、何をして良いのかわからない学生がいたことは確かである。よって、今後の授業でもこの点についてはしっかり意識をしなくてはならない。

3) 「教材（スライド、プリント）」について

こちらも概ね良い評価であったが、フィードバックであったように、学生がよく見落とす表現をあらかじめ視覚教材でどのように注意を促せるのかという点についても今後の授業で工夫していかなければならない。

2. 「今日の授業は理解できましたか」

有難いことにこちらも良い評価を頂いたが、「あまりわからなかった」という学生がいたのも事実である。フィードバックして頂いた中の観点から分析すると、「グループワーク活動に入る前の指示の出し方が明確ではなかった」、「ペアワークでの比較構文を使った対話練習の例の場面設定がわかりにくかった」「比較構文を使った対話練習の応答が二パターンあったため、負担に感じた学生がいた」などの原因が挙げられる。これらは今後の授業を作る上でも、非常に大切なことであるので、忘れずに対策を心がけていきたい。

3. 「今日の授業のよかった点、改善点を書いてください。」（自由記述：筆者訳責）

学生からの代表的なコメントを次に挙げる。

学生 A: อยากให้มีเกมให้เล่นเยอะอีกในการสอน

もっとたくさんのゲームがしたかった

学生 B: สไลด์สอนเข้าใจง่าย กิจกรรมสนุก

スライドがわかりやすかった 楽しい活動だった

学生 C: สอนดีและเข้าใจง่ายคะ วันนี้สนุกมาก คนญี่ปุ่นใจดีและพยายามเข้าใจในสิ่งที่เราพูด ★★★★★

教え方が上手で、わかりやすかったです。今日はとても楽しかったです。日本人は親切で、私たちが話していることを理解しようとしてくれていました。

学生 D: このクラスはとても楽しいです。日本語で話すことができます。

学生 E: อยากให้มีกิจกรรมแบบนี้อย่างน้อยเดือนละ 5 ครั้งก็ดีมากครับ ^^

今日の活動を月に最低5回はしたいです。

学生 F: สนุกดีค่ะ ได้พูดคุยกับเพื่อน คิดว่าดีแล้วไม่ต้องปรับปรุงอะไรค่ะ

楽しいし、友達と話せるし、良いと思います。改善点はないです。

学生 G: เรียนเข้าใจง่ายและสนุก ไม่มีอะไรต้องปรับปรุง

この授業はわかりやすく楽しかったです。改善点はないです。

学生 H: เข้าใจง่ายและสอนสนุกมีรูปประกอบสอนไปด้วยทำให้เข้าใจได้เร็ว และไม่ต้องปรับปรุงอะไร

わかりやすくて、楽しい教え方で、すぐ理解できるようにたくさんイラストもあった。改善点はないです。

全体的に良い評価を頂いたが、理由として多くの学生に共通して見られたのが、「楽しい」「わかりやすい」「日本語が話せた」という点である。自身も日本語の授業を作る上でどの点も大切にしていることであったので、大変有難いことであった。初級学習者にとっては特にこの三点はどの授業であっても欠かせないことであると再確認させられた。外国語学習は「理解できる」から「楽しい」につながるし、「楽しい」からさらなる学習動機につながると思われる。学生 A のコメント「もっとたくさんのゲームがしたかった」もまさに楽しく学びたいという気持ちの表れであると思われる。また「日本語が話せた」と学生が実感できる授業作りは簡単そうに思えるが、実際にはそうでないことも自身は今までの経験から実感しており、このように感じてくれた学生がいることは大変嬉しいことでもあった。やはり学習者は学習したことを実際に「使えるようになる」ということを常に求めており、教師側もそれをできるだけ感じてもらうように日々工夫をしていかなければならない。「日本語が話せた」という自信が学生の今後の学習動機につながることを願う。

7. 3月8日（水）現地活動について

7-1. 2年生への授業（担当：飯島）

本節は授業実施者である飯島が記載をする。

CRU で開講され井尻先生が教えられている「Listening and Speaking 4」の授業の時間を頂き、大学2年生を対象とした授業を実施した。授業日時、授業担当者、対象者、学習者のレベルは表3のとおりである。

表3 大学2年生授業基本情報

日時	3月8日（水）9：00～10：00（60分）
授業担当者	飯島雅人（鳴門教育大学 修士2年）
対象者	大学2年生28名（CRU「Listening and Speaking 4」受講者）
学習者のレベル	日本語初級レベル （「みんなの日本語初級Ⅱ」 第38課終了程度）

事前に井尻先生に対象者である2年生の日本語レベルや学習進度をお伺いし、授業計画や内容

を考えた。本来の授業が「Listening and Speaking 4」であることから、これまでに学習した表現を使用して、たくさん発話ができるような活動を取り入れることにした。また、2023年1月に今回対象とする2年生とZoomを利用して交流をしており、私の出身である神奈川県を紹介する活動をおこなっていた。上記を踏まえて、今回の授業の目標は、観光地やお土産などに関して、「相手に自分のおすすめについての情報を伝えること」と「相手のおすすめの情報を聞き取ること」の2つを設定した。タイの観光地やお土産を日本人に紹介するとともに日本人のおすすめを聞き取る活動をおこなった。授業で使用したスライドの一部が図6～9である。授業の流れは①会話例の提示・実演、②表現の紹介、③グループ活動、④発表の順におこなった。

ばしよ かんこうち
【場所（観光地）】を紹介する。

- ・Aさん：おすすめのお土産を教えてください。
- ・Bさん：観光地ですか。そうですね…。

よこはま
わたしのおすすめの観光地は「横浜」です。

「横浜」に「ガンダム」がありますよ。

とても大きいです。



図 6 場所(観光地)紹介の会話例

ばしよ かんこうち
【場所（観光地）】を紹介する。

- ・私のおすすめの【場所（観光地）】は××です。
- ・【場所（観光地）】に～があります。
- ・【場所（観光地）】で～ができます。

れい）横浜でふねにのることが出来ます／ふねにのれます。

- ・〇〇から【場所（観光地）】まで～時間／～分くらいかかります。

図 7 場所(観光地)を紹介するための表現

みやげ
【お土産】を紹介する。

- ・私のおすすめの【お土産】は××です。
- ・おすすめのお土産を教えてください／教えていただけませんか。

→私のおすすめの【お土産】は××です。

- ・××はいくらですか。

→××は00円／パーツです。

図 8 お土産紹介の会話例

みやげ
【お土産】を紹介する。

- ・Cさん：おすすめのお土産を教えてくださいませんか。
- ・Dさん：お土産…。そうですね…。

わたしのおすすめのお土産は
「鳩サブレ」です。

- ・Cさん：へえ、そうですね。

鳩サブレはなんですか。

- ・Dさん：鳩サブレはおかしです。

あまくておいしいですよ。



図 9 お土産を紹介するための会話例

具体的な内容や進行スケジュールは本報告書の末尾に付けた参考資料3のとおりである。

私の授業が終わった後、学生によるダンスのパフォーマンスとタイのお土産の紹介をして頂いた。お土産の紹介は、私がおこなった授業で学んだ表現を使って紹介できるように井尻先生が学生に事前に準備をするように伝えておいてくださっていた。タイの気候に合う涼しげなタイパンツや美味しいお菓子など、様々なタイのお土産を知ることができた。ローカルな市場でしか買うことができないものもあり、現地の学生ならではの視点でタイのお土産を知ることができた。



写真 7 学生によるお土産紹介①



写真 8 学生によるお土産紹介②

以下では、授業を実施した所感と学生に対しておこなったアンケートの結果をまとめる。

● 授業をおこなった所感

学生は皆明るく元気で、日本語が好きで勉強している様子が伝わってきた。クラス全体の雰囲気がとても良く、日本語がよくわかる学生はやや理解が追いつかない学生を手伝うなど、協力して授業に参加する体制が出来上がっているようであった。

授業が始まってしばらくは、私の緊張が学生にも伝わるくらい緊張していたが、クラスの雰囲気の良いことや時間の経過による慣れにより、準備してきた流れに沿って授業を終えることができた。学生は、伝えたい情報を自分が持っている知識を総動員して相手に伝えられるよう積極的に取り組むことができていた。最後にはグループごとに発表をおこなった。学生は聞いている人にとってわかりやすく興味を引く情報を取り入れて発表をすることができた。



写真 9 会話例を実演している様子



写真 10 表現を紹介している様子



写真 11 グループワーク



写真 12 自分たちのおすすめについての発表

授業を実施しての反省点はたくさんあるが、大きな反省を2点挙げる。

1点目は、取り上げた内容と説明の多さである。今回、やりたいことを多く取り入れすぎてしまい、取り上げた表現が多くなってしまった。そして、説明も長くなり、学生が発話をする時間も十分にとることができなかった。必然的に取り組む活動も多くなってしまい複雑化してしまった。2点目は、グループワークの指示の曖昧さである。グループワークを始めた時に学生たちが何をするのかかわからず、取り組むまでに時間がかかってしまった。

改善点として、取り上げる内容を厳選すること、活動が複雑にならないよう簡略化することなどが挙げられる。

- 3月8日（水）授業 アンケート（Google Formsにて26名に実施）

授業終了後に学生にアンケートに回答してもらった。アンケートの回答は26名のものが集まった。

授業の理解度について、【よくわかった／わかった／あまりわからなかった／わからなかった】の4段階から回答してもらった。「よくわかった」は8名、「わかった」は16名、「あまりわからなかった」は2名が回答した。ほとんどの学生に理解してもらえる授業をおこなうことができた。説明の仕方や教材（スライド）、授業の進度に対してもそれぞれ良い評価を得ることができた。声の大きさに関しては、大きすぎたり、やや聞こえなかったりと学生によって評価が異なった。教室に備え付けのマイクを使用したのだが、私がマイクを使用しての授業に慣れていなかったもので、使ったり使わなかったりとしてしまったことが原因なのではないかと考える。アンケートの最後には気づいたことを自由に記入してもらい欄も設けた。記入する言語は日本語でもタイ語でも良いとした。タイ語で記入されたものは、私が日本語に翻訳をした。

「またこのような楽しい授業を受けたい」、「もっと時間がほしかった」、「わかりやすかった」といった前向きなコメントを得ることができた。一方で、「もう少しゆっくり話してほしい」、「後ろの人でも見えるようなスライドにしてほしい」といった学生目線からの改善点を得ることができた。

今回の授業に対して学生からのフィードバックを得られたのはとても有益なことである。学生の正直な意見を得られたおかげで改善点も見えてきた。学生からの意見も取り入れられればより良い授業にすることができる。今後の授業作成の際の参考としたい。

今回の実習は、学ぶことが多く大変有意義な時間となった。大学で学ぶ学生の実際の様子を直接見ることができ、授業内外での日本語学習に対する積極性の高さを垣間見ることができた。先生方や学生からのフィードバックも大変参考になり、とても実りある実習となった。自己の反省や、得られたフィードバックを活かし、自身のスキルをより向上させ、教師としてどのように授業をしたら良いかを常に考えながら、今後も日本語教育の現場に還元していきたい。

7-2. 2年生の授業のフィードバック

授業終了後、45分程度のフィードバックの時間をとって頂いた。

参加者は、本学から教員2名（田中先生、廣田先生）、実習生2名（岩井、飯島）の4名、CRUビジネス日本語学科の先生4名の合計8名である。

良かったと評価頂いた点は、導入の進め方、話し方、初めに目標を伝えたこと、設定したテー

マについて、などであった。

前述のとおり、1月にZoomでオンライン交流をしていたが、ほぼ初対面である学生との距離を縮められるよう、お互いに少しでもリラックスできるように進めることを心がけた。また、目標を明確に伝えることを意識し、テーマ設定に関しては、学生が到達すべき点をイメージしやすくすることや、実用性を感じつつ、楽しんでもらえるように設定をした。こういった工夫や取り組みを評価して頂けたことは大変嬉しく思う。

改善が必要な点は、（文法などの）説明が長すぎることで、グループワークの指示が明確ではなかったこと、グループワークの活動が複雑だったこと、学生の返答を待たなかったこと、会話に繋げるチャンスを逃してしまったこと、などであった。自身の反省点でも述べたが、やはり1時間で扱う内容としては多すぎたことが原因である。内容が多かったり、複雑すぎたりすることで学生の内容の理解にも影響を与え、活動もスムーズに進まなくなる。取り上げる表現や活動は厳選して余裕を持って進められるように考える必要があった。また、学生が答える、考える時間を十分にとることができなかつた点に関して、スケジュールのとおりに進めるための焦りから柔軟な対応ができていなかった。時間内に終わられるようにタイムキープをすることは大切なことではあるが、学生の返答をしっかりと待つことなど、想定していなかつた事に対して時間が必要になったときには、柔軟な対応ができるようにすることも必要なことである。

8. 3月9日（木）現地活動について

3月9日（木）にバンコク都心、スクンビットエリアにある日本語教育に関する書籍・教材を扱う3つの施設を見学した。

- 見学した施設

- A) 国際交流基金バンコク日本文化センター図書館

所在地：

10th Fl. Serm-Mit Tower, 159 Asoke-Montri Road, Bangkok 10110, Thailand

- B) 泰日経済技術振興協会（ソーソートー）附属日本語学校内書店

所在地：

5-7 Sukhumvit Soi 29, Klongtoey Nua, Vadhana, Bangkok 10110, Thailand

- C) BOOKS Kinokuniya THAILAND

所在地：

3rd Floor Unit 3B 01 EmQuartier Shopping Complex 689 Sukhumvit Road, Klongton Nua, Wattana, Bangkok 10110, Thailand

滞在スケジュールは下記のとおりである。

10:30-11:30 国際交流基金バンコク日本文化センター図書館見学

12:00-13:00 昼食

13:30-14:30 泰日経済技術振興協会（ソーソートー）附属語学学校内書店で教材調査

14:30-15:30 BOOKS Kinokuniya THAILAND で教材調査

8-1. 国際交流基金バンコク日本文化センター図書館見学

国際交流基金バンコク日本文化センター内にある図書館で、無料で館内の書籍を閲覧することができる。BTS アソーク駅もしくは地下鉄 (MRT) スクンビット駅から歩いて 10 分ほどの場所に位置するサーミットタワーというビルの 10 階にある。1 階の受付で図書館に入館したい旨を伝え入館証を受け取ることで入ることができる。

見学した施設の中では、日本語教育に関する書籍の所蔵が最も多い。日本語教育関係の書籍はもちろん、文化や社会に関するもの、辞書や漫画など一般の書籍も所蔵されている。施設内には学習スペースもあり、その場で勉強や閲覧をすることも可能である。

年会費【学生 300 バーツ／一般 600 バーツ／日本語教師 500 バーツ (2023 年 3 月 9 日時点)】を支払い会員になることで本を借りることができる。バンコクで手軽に日本語に関する本を読みたい、借りたいと思う人にとってはとても便利な施設である。



写真 13 図書館入り口および学習スペース



写真 14 DVD 閲覧スペース



写真 15 日本語教育関係書籍①



写真 16 日本語教育関係書籍②



写真 17 辞書・辞典など

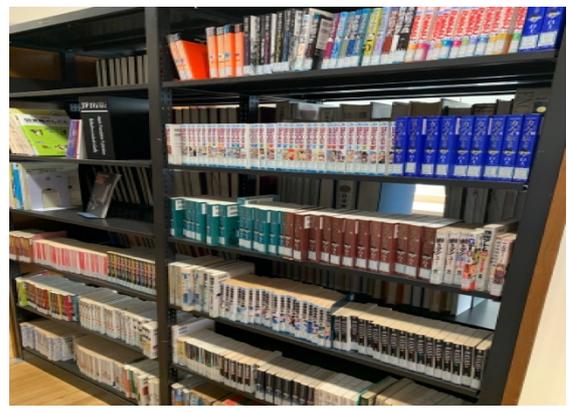


写真 18 漫画など

8-2. 泰日経済技術振興協会（ソーソーター） 附属語学学校内書店での教材調査

日本語教育関係書籍および、教材の販売をおこなっている。スカイトレイン（以下 BTS）アソーク駅もしくは BTS プロンポン駅より徒歩 10 分程度の場所に位置する。語学学校併設の書店であるため、タイ人日本語学習者向けに販売されている書籍（タイ語の表記が中心であるもの）が多い。文法や語彙、日本語能力試験（以下 JLPT）の対策を学ぶことに特化した書籍や、ビジネスマナー、メールの書き方、文化などを学べる書籍などもあった。書籍は日本で出版されているものに比べると比較的安く、手に取りやすいものが多かった。

タイ国内で主に使用されている『日本語 あきこと友達 改訂版』シリーズや、『みんなの日本語 初級 1・2 第 2 版』の出版もしているため、在庫も豊富でいつでも購入することができる。



写真 19 店内の様子



写真 20 取り扱われている日本語の教科書

8-3. BOOKS Kinokuniya THAILAND での教材調査

日本の紀伊國屋のタイ支店である。今回は、バンコク内に 3 店舗あるうち B) からも近い EmQuartier というデパートの中にある店舗を訪れた。このデパートは MRT プロンポン駅の目の前にあるため、アクセスしやすい。店内はとても広く、様々な書籍が揃えられていた。残念ながら、デパート内の店舗であるため売り場の撮影はできなかった。日本語教育関係の書籍以外にも漫画や一般書、児童書などの日本語の書籍も多数取り揃えられており、種類も豊富である。また、洋書など外国語で書かれた書籍もあり、手に入る書籍の種類の高さは今回見学した施設の中でも一番である。店舗によって品揃えが異なるようで、店員によると漫画は別の店舗の方が在庫数が多いようであった。

こちらは、日本で販売されている（日本語で書かれている）書籍を購入するのに便利である。特に JLPT 対策の書籍は棚一面に並んでおり、日本にいるのと同じように様々な書籍を選ぶことができると感じた。日本での販売価格と比べるとやや高いが、いつでも日本の書籍が手に入るという安心感があることはタイで日本語を教える・学ぶ上では重要なことではないかと思う。

3つの施設を見学して、タイの日本語教育に関する書籍はかなり充実している印象を受けた。タイ人向けにタイ語で書かれている書籍が多く、書籍を自分で購入しての自主学習もしやすい環境であると感じた。やや割高であるが、日本語で書かれている書籍の購入も可能である。図書館を利用すれば、無料でより多くの書籍を閲覧することもできる。どの施設も駅から比較的近い位置

にあるため、アクセスも良い。タイの日本語教師、日本語学習者にとって、良い環境であることがわかった。

9. まとめ

今回は短期間ながらも大変有意義な研修だった。タイの大学で実際に日本語授業を行い、学生たち、先生方からフィードバックを頂いた。それらを通して、「わかりやすい」「楽しい」「日本語が話せる」ということが授業作りにおいてやはり大切な点であるということを確認できた。また、授業構成の考え方、グループ活動前の指示の出し方、新しく提示する文型理解の促し方などは今後もっと気を付けていかなければならない点であるということも教えて頂いた。そして、二日目はタイ人の先生からもたくさんコメントを頂き、日本語教師としてのみならず、非日本語母語話者としての視点からもご意見を頂き、大変学ぶことが多かった。

それから、タイの大学のビジネス日本語学科の学生がどのように日本語を学び、将来目指しているものも少しながら垣間見ることができた。そして、学生にも大学の構内案内をして頂いたり、授業中にタイ文化を紹介して頂いたりとお互いの交流を持てる時間も設けて頂き、お互いを少しでも知ることができたように思う。初級者である学生たちが一生懸命タイについて日本語で紹介してくれた姿が今でも忘れられない。学生は普段日本人とあまり話す機会がないと聞いていたので、短期間ではあったが、学生にとっても有意義な時間であってくれたことを切に願う。

今後このプログラムに参加される方々には、現地にいる時間は限られているので、日本語の授業もその他の学生との交流も一瞬一瞬を大切に時間を過ごして頂ければと思う。そして、失敗を恐れず、学生のためになること、喜んでもらえそうなことにどんどん挑戦して行って頂きたい。おおらかで楽しむのが大好きなタイの方たちの笑顔がいつも皆さんを待っていると思う。

今回このような機会を与えてくださったチャンカセーム・ラチャパット大学、鳴門教育大学に感謝の気持ちでいっぱいである。残りの学業生活、卒業後の進路にも生きていく非常に貴重な経験となった。

(岩井 ゆふ)

今回の派遣は、5日間、実際に活動ができたのは3日間という弾丸スケジュールで短い期間ではあったが、学びが多い派遣となった。実際に高等教育機関で学ぶ日本語学習者の様子を見ることができた上に、授業のための時間も頂けた。そして丁寧にフィードバックをして頂き自分の良い点や改善点を知る良い機会にもなった。失敗や改善が多く申し訳ない気持ちであり、100点満点の授業ができなかったことに後悔もあるが、今後の自分の成長につながる大変貴重な機会を頂くことができ、本当にありがたく思う。

今回の訪問および実習を快く受け入れてくださったチャンカセーム・ラチャパット大学のサワニー先生、タワット先生、パウイン先生、井尻史子先生に心より感謝いたします。特に、井尻先生には派遣前から滞在中と大変きめ細かなフォローをして頂き、授業についてや滞在中の身の回りのことなどたくさんアドバイス頂きました。重ねてお礼申し上げます。

これから実習に参加する機会がある後輩の皆さんには、可能であるならば、参加してみることをお勧めする。特にタイでの実習は、時差も少なく、食事も美味しいので生活する上で困ること

はほとんどない。優しい人も多く、学生も一生懸命に日本語を勉強しているので、とても良い環境で実習に臨むことができる。何より、実際に海外の現場で授業をすることは、思っている以上に得られるものが多く、とても貴重な体験になるだろう。今後、コロナも落ち着き、海外での実習がコロナ以前のようにできるようになった暁には、皆さんにもぜひ積極的に参加してほしいと思う。

最後に、今回、このような貴重な機会を作ってくださった鳴門教育大学の皆様にも感謝を伝えたい。私にとって今回の派遣は待ち望んだものであった。なぜなら、鳴門教育大学への進学を選んだ理由は、タイでの教育実習ができるからである。新型コロナウイルス流行の影響で、海外での教育実習の機会がなくなってしまう、とても残念に思っていたところに今回の派遣のお話を頂き、本当に嬉しかったことを覚えている。今後も、このように大変有意義となる機会が得られる実習が続くことを願っている。

(飯島 雅人)

参考資料 1

チャンカセーム・ラチャパット大学 1 年生 日本語授業 教案

授業日時	2023 年 3 月 7 日 (火) 12:00~13:00
授業担当者	岩井ゆふ
学習者の学年、レベル	大学 1 年生 初級レベル(みんなの日本語 19 課あたり終了程度)
学習者の人数	42 人
授業時間	60 分
テキスト	なし
到達目標	食べ物や料理について形容詞を使って話すことができる。
学習項目	<p>a. 食べ物・料理の名前 「アイスクリーム」「チョコレート」「ラーメン」「レモン」「やきとり」「ざるそば」「さしみ」「パイナップル」「カレーライス」「うめぼし」「ガパオライス」「ソムタム」「ヤムウンセン」</p> <p>b. 形容詞 「甘い」「からい」「すっぱい」「温かい」「冷たい」「おいしい」「まずい」</p> <p>1. 「～は形容詞です」</p> <p>2. 「～も～も形容詞です」</p> <p>3. 「～と～とどちらが形容詞ですか」「～のほうが形容詞です」</p> <p>4. 「食べ物で何がいちばん好きですか」「～がいちばん好きです」</p>

時間	学習者の活動	教師の活動	指導上の留意点	教材
12:00		教師の自己紹介		PPT
		単語リストを配付しておく。		単語リスト (ことばとその対訳がタイ語で書かれたもの)
12:05	食べ物・料理の名前を言う	食べ物・料理の名前の練習(絵カードを使って)	カタカナのことばの発音に注意させる	絵カード (PPT)
	形容詞を言う	形容詞の練習		絵カード

時間	学習者の活動	(絵カードを使って) 教師の活動	「温かい」と「熱い」の違いに気を付ける 指導上の留意点	(PPT) 教材
12:15	6人グループ(×7)に分かれる	事前に練習した食べ物・料理の絵カードと形容詞(文字)カードをそれぞれ一枚ずつグループに配付する。		食べ物・料理の絵カードと形容詞カード (7セット)
12:20	<p>1.「～は形容詞です」</p> <p>Tの例のあとをリピートする。</p> <p>一人ずつ食べ物・料理の絵カードを1枚選ぶ。それから、それに合う形容詞カード1枚を組み合わせて、「～は形容詞です」の文で発表する。 (絵カード、形容詞カードは何回使ってもよい 以下同様)</p>	<p>「～は～です」文型提示。例を見せる。</p> <p>グループを見回る。</p>	各カードは使ったらまた机の上に戻す。 (以下同様)	<p>食べ物・料理の絵カードと形容詞カード (7セット)</p> <p>「～は～です」文型提示(PPT)</p>

<p>12:25</p>	<p>2.「～も～も形容詞です」</p> <p>T の例のあとをリピートする。</p> <p>一人ずつ食べ物・料理の絵カードを2枚選ぶ。それから、それに合う形容詞カード1枚を組み合わせて、「～も～も形容詞です」の文で発表する。</p>	<p>「～も～も形容詞です」文型提示。例を見せる。</p> <p>グループを見回る。</p>		<p>食べ物・料理の絵カードと形容詞カード (7セット)</p> <p>「～も～も形容詞です」文型提示(PPT)</p>
<p>12:35</p>	<p>3.</p> <p>A:「～と～とどちらが形容詞ですか。」</p> <p>B:「～のほうが形容詞です。」</p> <p>T の例のあとをABに分かれてリピートする。</p> <p>グループの中でペアになって、A,Bのダイアログを練習。</p> <p>(絵カードや形容詞カードを使っても、使わなくてもよい。)</p> <p>(時間があればいくつかのペアは全体に発表)</p>	<p>A,B のダイアログを提示。例を見せる。</p> <p>ペアを作る。 グループを見回る。</p>	<p>学生はカードを取らなくてもよい。単語リストを見てもよい。<u>好きなことばを使ってもよい。</u></p>	<p>A,B ダイアログ提示(PPT)</p>

12:45	<p>4. A:「食べ物でいちばん何が好きですか。」 B:「～がいちばん好きです。形容詞ですから。」</p> <p>T の例のあとをABに分かれてリピートする。</p> <p>グループの中でペアになって、A,Bのダイアログを練習。</p> <p>(絵カードや形容詞カードを使っても、使わなくてもよい。)</p>	<p>A,B ダイアログ提示。例を見せる。</p> <p>ペアを作る。 見回る。</p>	<p>学生はカードを取らなくてもよい。単語リストを見てもよい。<u>好きなことばを使ってもよい。</u></p>	<p>A,B ダイアログ提示 (PPT)</p>
12:55	<p>いくつかのペアに、全体に発表してもらおう。このときに、教室内の他の</p>	<p>いくつかのペアをあてる。</p>		
13:00	<p>日本人とも話してもらおう。</p>	<p>まとめ (今日の文型をもう一度PPTで振り返りながら)</p>		

3/7 ^た食べ物・^{もの}料理 & ^{りょうり}形容詞の ^{けいようし}ことば

- ^た食べ物・^{もの}料理-อาหาร, การทำอาหาร

1. アイスクリーム ไอศกรีม
2. チョコレート ช็อกโกแลต
3. ラーメン ราเมน
4. レモン มะนาว
5. やきとり ไก่ย่าง
6. ざるそば บะหมี่เย็นซารุโซบะ
7. さしみ ซาซิมิ
8. パイナップル สับปะรด
9. カレーライス ข้าวแกงกะหรี่
10. うめぼし บ๊วยดอง
11. ガパオライス ข้าวผัดกะเพรา
12. ソムタム ส้มตำ
13. ヤムウンセン ยำวุ้นเส้น



- ^{けいようし}形容詞 -คุณศัพท์

14. あまい หวาน
15. からい เผ็ด
16. すっぱい เปรี้ยว
17. あたたかい อบอุ่น
18. つめたい เย็น
19. おいしい อร่อย
20. まずい ไม่อร่อย

チャンカセーム・ラチャパット大学 短期派遣 授業教案

21813021

飯島 雅人

日時	3月8日(水)9:00~10:00(60分)
担当者	飯島 雅人
対象	大学2年生 28名
学習者のレベル	みんなの日本語初級2 38課終了
テーマ	おすすめの場所(観光地)や物の紹介
本授業の目標	(文法) ・自分が知りたいことを質問することができる。 (会話) ・実際に日本人とおすすめの場所(観光地)や物について会話をする。 ・相手に自分が持っている情報を伝えることができる。 ・相手が話す情報を聞き取ることができる。
学習項目	・おすすめの【場所(観光地)】／【お土産】を教えてください／教えていただけませんか。 ・私のおすすめの【場所(観光地)】／【お土産】は××です。 ・〇〇から【場所(観光地)】までどれくらいかかりますか。 ・どうやって行きますか。 ・××はいくらですか。

時間	内容	備考
9:00~ (5分)	○1月16日の内容の復習 ・神奈川県について:観光地や名産品の紹介 どんな場所、物があったかをクイズをしながら振り返る。	前回、授業をしているため、自己紹介は簡単に済ませ、復習に入る。
9:05~ (15分)	○「相手に自分のおすすめの場所(観光地)や物を紹介する」、「相手におすすめの方法(観光地)や物について質問をする」ときに使える表現を紹介する。 1. 場所(観光地)を紹介するときに使う表現 A) 私のおすすめの【場所(観光地)】は××です。	前回授業で使用したスライドを交えながら、文法を導入する。 A,B,C,D 黄色

	<p>B) 【場所(観光地)】に～があります。</p> <p>C) 【場所(観光地)】で～ができます。</p> <p>D) ○○から【場所(観光地)】まで～時間／～分くらいかかります。</p> <p>E) (A を聞きたい時の質問)おススメの【場所(観光地)】を教えてください／教えていただけませんか。</p> <p>F) (D を聞きたい時の質問)○○から【場所(観光地)】までどれくらいかかりますか。</p> <p>+ α (その場所までの行き方を知りたいときに使う表現)</p> <p>G) どうやって行きますか。</p> <p>H) ■■で行きます。</p> <p>2. お土産を紹介するときに使う表現</p> <p>I) 私のおススメの【お土産】は××です。</p> <p>J) (I を聞きたいときの質問)おススメの【お土産】を教えてください／教えていただけませんか。</p> <p>+ α (その物の値段を知りたいときに使う表現)</p> <p>K) ××はいくらですか。</p> <p>L) ××は 00 バーツ／円です。</p> <p>3. 共通の表現</p> <p>M) 【場所(観光地)／お土産】は～くて(で)～です。</p> <p>* 表現の紹介を終えたら、会話例も合わせて紹介する。 (グループワークでも使用する)</p> <p>○会話例:場所(観光地)を紹介する</p> <p>A さん:おススメの観光地を教えてください。</p> <p>B さん:観光地ですか。そうですね…。</p> <p>私のおススメの観光地は横浜です。横浜にガンダムがありますよ。とても大きいです。</p> <p>A さん:へえ、そうですか。良いですね。</p> <p>(羽田)空港から横浜までどうやって行きますか。</p> <p>B さん:電車で行きます。</p> <p>A さん:(羽田)空港から横浜までどれくらいかかりますか。</p> <p>B さん:(羽田)空港から横浜まで～分くらいかかります。</p> <p>A さん:わかりました。ありがとうございます。</p>	<p>マーカーの表現が【場所(観光地)】の紹介であることに注意する。</p> <p>I 黄色マーカーの表現が【お土産】の紹介であることに注意する。</p>
--	---	---

	<p>Bさん:ぜひ行ってみてください。</p> <p>○会話例:お土産を紹介する</p> <p>Aさん:おすすめのお土産を教えてくださいませんか。</p> <p>Bさん:お土産…。そうですね…。</p> <p>私のおすすめのお土産は<u>鳩サブレ</u>です。</p> <p>Aさん:へえ、そうですか。鳩サブレはなんですか。</p> <p>Bさん:鳩サブレはお菓子です。<u>甘くて美味しい</u>ですよ。</p> <p>Aさん:わあ、食べたいです。<u>鳩サブレ</u>はいくらですか。</p> <p>Bさん:4枚で <u>540円</u>です。</p> <p>Aさん:わかりました。ありがとうございます。買いに行きます。</p> <p>Bさん:ええ、ぜひ買ってみてください。</p> <p>*観光地やお土産の話をするときはどんな時か、場面を考えてもらう。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人の友達との会話 ・ガイドの仕事に就いた場合、日本人観光客に質問された時 ・日本に旅行したときに日本人に尋ねる ・職場の日本人の同僚／上司／取引先との会話 	
<p>9:20～ (20分)</p>	<p>○グループワーク</p> <p>*日本人(田中先生、廣田先生、岩井さん、飯島、できたら井尻先生)と学生でグループを作る。</p> <p>5人のグループ×2</p> <p>6人のグループ×3</p> <p>タイの学生はタイの、日本人は日本の「おすすめの場所(観光地)や物」をお互いに紹介し合う。</p> <p>合わせてワークシートを配付し、メモをする。発表の準備にも備えておく。</p> <p>〈ポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おすすめの場所(観光地)や物の名前を正確に伝える／聞き取る。 ・お金や時間などの正確な数字を伝える／聞き取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループメンバーに偏りがないように調整(井尻先生にお願いする。) ・事前に1人1つ(おすすめの場所(観光地)か物)、紹介する物を決めておいてもらう。 <p>できれば、グループと日本人を交代しておこないたい。</p>

		(交流を 10 分 ×2 回)
9:40～ (15 分)	<p>○発表</p> <p>・グループワークで得た情報を発表する。1 グループあたりの持ち時間は 1 分とする。</p> <p>*グループを「準備してきたタイのおすすめ(1 つ決める)を発表するグループ」と、「グループワークで聞いた日本人のおすすめを発表するグループ」のさらに 2 つに分ける。(計 10 グループ)</p>	発表 10 分 時間調整のために 5 分を使う。
9:55～ (5 分)	○まとめ	授業の内容を簡単に振り返る。 何人かに改めておすすめについて尋ねる。